



とうじ

冬至（21日）… 東京では晴れの日が続き、乾燥が進む季節です …

日が暮れるのが早くなり、一年で一番昼間が短く、夜が長くなるのが冬至です。それ以上に東京では毎年晴れの日が続いて乾燥が進み、園庭に何度も水をまくのが日課になる季節です。そして、わくわく池の水が枯れていることに気付いた子どもたちは…。

<雪下出麦 ゆきわたりて むぎのびる 12月31日～1月4日>

冬至の末候は「雪下出麦」です。雪の下で麦が芽を出す頃だそう。麦の収穫は春から初夏で、その季節のことを麦秋と呼びます。

新年あけましておめでとうございます。令和3年もどうぞよろしくお祈りします。

<かえでの木の様子を見守って>

青南幼稚園の園庭には、実に多くの種類の樹木が植えられています。その中でも、園庭の真ん中にそびえる「かえで」は、「さくら」とともにシンボルツリーとなっており、年長組の学級名ともなっています。さくらは秋の早い時期には色付き始めました。どちらも落葉樹ながら、今年のかえでは特にその変化が気になっていました。

<いつも同じとは限らない>

昨年の夏は、記録的な猛暑で、かえでの葉は日に焼けて葉の先が日に焼けて焦げたようになっていました。その後も気温の高い日が続き、雨が少なかったこともあり、例年より葉っぱに元気がない様子でした。それもあって、かえでの色付きが気になっていたのですが、本格的に黄色や朱色になってきたのは、ようやく12月も半ばを過ぎた頃でした。自然との関わりを通して、自然は人の思惑通りにならないこともあることを知ることは大事なことです。

<自然は常に多様だった…>

2階のかえで組のベランダから見下ろすと黄金色。あんず組側から見上げてもやはり黄金色です。しかし、バラ門側から見ると、渋めの赤色で、鉄棒側から見るとまた違う赤色に見えます。当たり前のようなようですが、自然物の一つとして同じ物はなく、多様であることを体験することも、自然と関わることの大事な意味だと改めて実感しました。

この頃には風が吹くだけでも葉が落ち始め、子どもたちはきれいな葉っぱを集めてソファーにして遊んでいました。



12月8日、一部が赤くなり始め…



12月20日、東側は赤や朱色に



いろいろな葉が落ち始めました



同日、2階から見下ろすと黄金色



25日、遊戯室側から見上げると黄色や朱色が混ざった黄金色



きれいな落ち葉は子どもたちの恰好の遊び道具になります



25日、バラ門側から見ると渋い赤色